第２学年６組　社会科学習指導案

日時
在籍生徒数
授業者　　小野寺　泉
場所

１．単元名　「自然環境から学ぶ九州地方」

２．単元の目標と評価

（１）目標

自分たちが住んでいる日本という国を７つの地域に区分し、それぞれの地域について、自然環境、歴史的背景、産業、環境問題・環境保全、人口や都市・村落、生活・文化、他地域との結びつきのいずれかの視点を中核とした考察の仕方をもとにして、地域的特色を捉えることが出来るようにする。また、人々の生活や産業などと関連づけ、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることなどについて考えることができるようにする。

（２）評価規準

ア　関心・意欲・態度	イ　思考・判断・表現	ウ　観察・資料活用	エ　知識・理解
○九州地方の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方の特色を意欲的に追究しようとする。	○自然環境を中核として、そこに住む人々の生活と産業との関係について多面的・多角的に考察し、自分の言葉でまとめることができる。 ○九州地方の工業がどのような条件のもとに発展してきたのかを、説明することができる。	○地図や写真、雨温図などの資料から、九州地方の位置や地形、気候の特色を読み取ることができる。 ○地図や資料から、九州地方の自然環境の特色やそれを生かした産業、災害や防災への取り組みを読み取ることができる。	○九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色や、人々の生活や産業と自然環境との関わりについて理解している。 ○自然環境や地理的位置と関わりが強い九州地方の歴史や工業の特色を、具体的に上げることができる。

３．単元について

本単元は中学校学習指導要領の地理的分野（２）ウ「日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の（ア）から（キ）で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。」の（ア）「自然環境を中核とした考察」を受けて構成したものである。

ここでは九州地方を自然環境の視点を中心にして取り上げる。九州地方は日本列島の南西に位置し、暖流の影響で温暖な気候であり、プロ野球のキャンプ地となり、農業の面ではビニルハウスを利用した促成栽培を行ったり、二毛作を行ったりしている。またシラス

台地は水分を保ちにくく、干ばつなどの被害を受けやすかったが、ダムや農業用の水路を整備するなど工夫して土地利用をすることができるようになった。こうした土地改変の努力によって、九州地方は日本有数の農業地帯となっていることを理解させる。

さらにまた、九州地方は阿蘇山や桜島といった火山の影響も受けている地域である。火山地帯は噴火による火山灰が降ってくるという悪い面もあるが、温泉や地熱発電といった火山が与える恩恵もあるということをしっかり理解させる必要がある。また、沖縄県などの西南諸島の島々では温暖な気候やきれいな海などを生かして観光業などが盛んである。沖縄県は現在も戦争の影響の影響が残っており、アメリカ軍事基地がおかれているため、住民の生活や産業の妨げになっているという問題も抱えていることも気付かせたい。

このような学習を通して、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係を持っていることや、様々な自然災害に対応する防災対策が必要であることなどを踏まえて考察することをねらいとしている。

地理の学習では日本の地方区分については教科書でもすでに学習している。先の学習では７地方区分とともに、区分の目的や基準によって、区分するときの地域の数や大きさが変わってくるということを学んだが、ここでの学習では、地理学習において最も一般的でなじみ深い７地方区分に即して、日本の諸地域を学んでいく。その中で今回は九州地方について自然環境の視点を中心にして学んでいくが、九州地方は栃木県から遠く生徒たちにとって身近な存在とは言い難い。そのため九州地方について知らないことの方が多いと言えるであろう。そこで、より具体的なイメージを持つことができるように地図帳を活用したり雨温図や写真などの資料を活用したりし、視覚的に九州地方を学習することができるような指導を行う。

本学級の生徒は明るく素直で、何事にも積極的に取り組むことができる。そのため、授業内外での活動を自ら進んで意欲的に取り組む姿をよく見ることができる。一方で、意欲的に取り組み調べてわかったことを自分の言葉で他の生徒に伝えることが苦手とする生徒もいる。そこで、写真や雨温図などの資料を用いて、資料の読み取りの中から生徒が気付いたことを発表する機会を作り、他の生徒の意見を聞くこと、他の生徒に意見を伝えることの大切さに気付かせたい。

４．単元の指導計画（５時間扱い）

時数	主な学習活動	各時間の評価規準
１	○九州地方の自然環境を知ろう ・九州地方の都道府県の数と場所を把握する。 ・九州地方の地図を用いながら、地形を確認する。 ・九州地方で平成になってから噴火した火山を問い、その後阿蘇山ではカルデラが噴火によって噴火によってできたことを押さえる。	ア　九州地方の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方の特色を意欲的に追究しようとする。 ウ　地図や写真、雨温図などの資料から、九州地方の位置や地形、気候の特色を読み取ることができる。

	・九州地方の観光について押さえる。サンゴ礁を押さえるときにはサンゴ礁のできる条件も押さえ、自然環境について触れる ・図⑤⑥や雨温図を見ながら九州地方の気候について押さえる。	
2	○火山の良い点・悪い点を考えよう ・地図帳を使いながら、九州地方には火山が多いことを確認し、温泉地が多くあることに気付かせ、火山のめぐみを生かしていることを捉える。 →別府、湯布院（大分）雲仙（長崎）黒川（熊本）霧島（鹿児島・宮崎） ・温泉を生かすことのメリットや温泉以外で火山があることのメリットを考える。（地熱発電・観光地） ・火山によるデメリットを考える。（自然災害） ・デメリットに対する具体的な取り組みを考える。（防災訓練・避難場所の確保・火山防災マップの作成）	ウ　地図や資料から、九州地方の自然環境の特色やそれを生かした産業、災害や防災への取り組みを読み取ることができる。 エ　九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色や、人々の生活や産業と自然環境との関わりについて理解している。
3	○九州地方での工業の発展を理解しよう ・福岡県を中心として東アジアの国々の首都（ソウル・ピョンヤン・ペキン・タイペイ・東京）までの距離が近い順番に並び替える ・大陸に近い位置にある九州地方は船の往来に恵まれた自然環境や大陸への距離であったことを押させる。 ・福岡空港から国内やアジア各地へ航空路線が開設されていることや九州新幹線が 2011 年に全線開通したことを押さえ、日本各地だけでなく、アジア・九州地方の各地との結びつきが強いことを確認する。 ・九州北部の工業の歴史は古く、筑豊炭田などの炭田や中国から鉄鉱石を輸入するのに便利ということで、鉄鋼を中心とした北九州工業地帯として発展してきたことを理解させる。（八幡製鉄所）	イ　九州地方の工業がどのような条件のもとに発展してきたのかを、説明することができる。 ア　九州地方の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方の特色を意欲的に追究しようとする。 エ　自然環境や地理的位置と関わりが強い九州地方の歴史や工業の特色を、

	・鉄鋼業から機械業へと変わってきた経緯や理由を理解させる。 ・IC 工場が九州へ進出を相次いでいることを豊かな自然環境が必要であることや航空機輸送でも採算が取れるという点を押さえて理解させる。	具体的に上げることができる。
4	○九州地方の農業の工夫を理解しよう ・教科書ｐ.172 の二毛作の作物カレンダーと夏と春の筑紫平野の写真をもとに九州地方の農業を理解する。 ・九州地方が日本有数の農業地帯であることを押さえるために、九州地方の農業の特徴や工夫を理解させる。（促成栽培） ・九州地方南部がシラス台地であることを押さえ、シラス台地の開発や整備について理解させる。また、南部では畜産が盛んであることも押さえ、畜産での工夫を押さえる。	ア　九州地方の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方の特色を意欲的に追究しようとする。 ウ　地図や資料から、九州地方の自然環境の特色やそれを生かした産業への取り組みを読み取ることができる。
5	○沖縄の生活と産業を理解しよう ・沖縄とアジアとの関係を歴史（琉球王国という独立した国、中継ぎ貿易）を絡めながら確認し、今でも残る文化などを理解する。（2000 円札） ・第二次世界大戦唯一の地上戦の被害地となった沖縄の戦後の住民の生活への影響を理解させる。 ・沖縄の自然環境を知り、自然災害に備えた沖縄の人々の生活の工夫を理解させる。 ・沖縄の自然環境を生かした産業の工夫や近年の産業の変化についてその背景とともに理解させる。	エ　アジアとの交流の歴史や自然環境との関わりが強い沖縄のくらしや産業を、具体的にあげることができる。 ア　沖縄県の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、沖縄県の特色を意欲的に追究しようとする。

５．本時の学習（１／５）

（１）目標

・九州地方の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方の特色を意欲的に知ろうとする。

・教科書の手がかりから、九州地方の自然環境や土地利用を読み取ろうとしている。

（２）評価規準

・九州地方の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方の特色を意欲的に

読み取ることができる。（関心・意欲・態度）

・雨温図から、九州地方の自然環境の特色を読み取ることができる。（観察・資料活用）

（3）準備

・資料①（日本列島の白地図）

・資料②（九州地方の白地図）

（４）展開

過程 （時配）	教師の指導	生徒の活動	☆指導上の留意点 ★評価
事象提示 ７ 分	○九州地方の位置や８つの都道府県から成り立っていることを確認する。 「まずはみんなに質問します。日本の地域の分け方には都道府県の他に７つの地方区分に分ける分け方があります。どんな地方があったかわかるかな？」 「今日からはその地方の中でも九州地方の勉強をしていきます。まず、地図帳で日本全体が載っているページを開いて、九州地方の位置を確認してみよう。」 「九州地方はいくつの都道府県からできているかな？」 「８つどこがあったかな？」 「九州地方ってみんなどんなイメージを持っているかな」	・北海道地方、東北地方、関東地方、中部地方、近畿地方、中国・四国地方、九州地方 ・日本の左下（南西）のほうにある。 ・８つの都道府県 ・福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 ・博多ラーメン、さつまいも、カステラ、温泉、沖縄のビーチ・サンゴ礁、マンゴー、くまもん	☆日本列島の白地図を用意しておく。（資料①） ☆地図帳を使用する。 ☆九州地方の白地図を用意しておく。（資料②） ☆どんなことでもいいから、自分の持つ九州地方のイメージを発表させる。
課題提示 ２ 分	○課題提示 九州地方の自然環境を知ろう		☆本時の課題を板書する。
追求解決 ①	○教科書の九州地方の地図を用いて、地形を確認する。	・山地、丘陵の地形が多い。	☆地形について生

１８ 分	「九州地方はどんな地形をしているかな。」 「九州地方の火山でみんなが知っている噴火した火山ってあるかな。」 ○生徒の発言と写真①をもとにカルデラなど地形を押さえる。 ○南西諸島の島々は観光地であることを押さえる。 「写真②を見てわかるように沖縄県は観光客がにぎわう場所も多くあります。沖縄県の海は観光客にとって良い条件が３つあるけど、何かわかるかな？ヒントは地図を見ると沖縄県の周りには何があるって書いてあるかな？」 「サンゴ礁はどんな所にできるのか、理科で勉強したのを覚えているかな？」	・火山が多く分布している。 ・島がたくさんある。 ・雲仙岳（1995）桜島（2015）霧島山（2011）阿蘇山（2015）薩摩硫黄島（2013）諏訪之瀬島（2015） ・サンゴ礁がある ・暖かくて、浅くて、きれいな海	徒の気づきが少なかったら、地図の色によって地形が異なることを伝える。 ☆良い条件３つを答えてもらうために、沖縄県の海にはサンゴ礁があるということを押さえ、サンゴ礁を生かして考えさせる。 ★九州地方の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方の特色を意欲的に読み取ることができる。 （関心・意欲・態度）
追求解決② １８ 分	○九州地方の気候について確認する 「写真⑤はプロ野球の春季キャンプの開催地が示されています。なぜ九州地方で２月からキャンプが行われるのかな？」 ○図７を見ながら冬でも暖かいのか確認する。（この時比較のためにも東京都と小山市の年平均気温を提示する。） →東京 15.4℃、小山 13.9℃ 「なぜ九州地方は年平均気温が高くなるのかな？」 「九州地方の周りを流れる海流が関係しているけど何海流だかわかる人。」	・冬でも暖かいから。 ・天気の良い日が多いから。 ・グランドなどの設備が充実しているから。 ・暖流の黒潮や対馬海	☆黒潮や対馬海流が出てこなかった

	「黒潮や対馬海流といった暖流が流れている影響で九州地方は暖かくキャンプも行うことができていたんだね。」 「⑦の雨温図で宮崎県の雨温図を見ると、6月に降水量がとても多くなっているけど、なぜかな？」 「次に多い 9 月はなんで多いかな？」 「降水量が多いことでの良い点・悪い点はなにかな？」	流。 ・梅雨の時期だから ・台風の時期だから ・作物が育ちやすい ・水不足になりにくい ・洪水 ・土砂崩れ ・集中豪雨	ら、教科書ｐ135 ページを開いて確認する ★雨温図から、九州地方の自然環境の特色を読み取ることができる。（観察・資料活用）
まとめ 5 分	○まとめ 「今日は九州地方の自然環境について、火山や西南諸島の島々といった地形、気候などについて学習しました。これからはこれらの地形や気候が九州で生活する人々の生活や産業にどのように関わっていくのかを学習していきたいと思います。」		

（3）板書計画

課題

九州地方の自然環境を知ろう

日本列島の図

九州地方
の地図

○自然環境

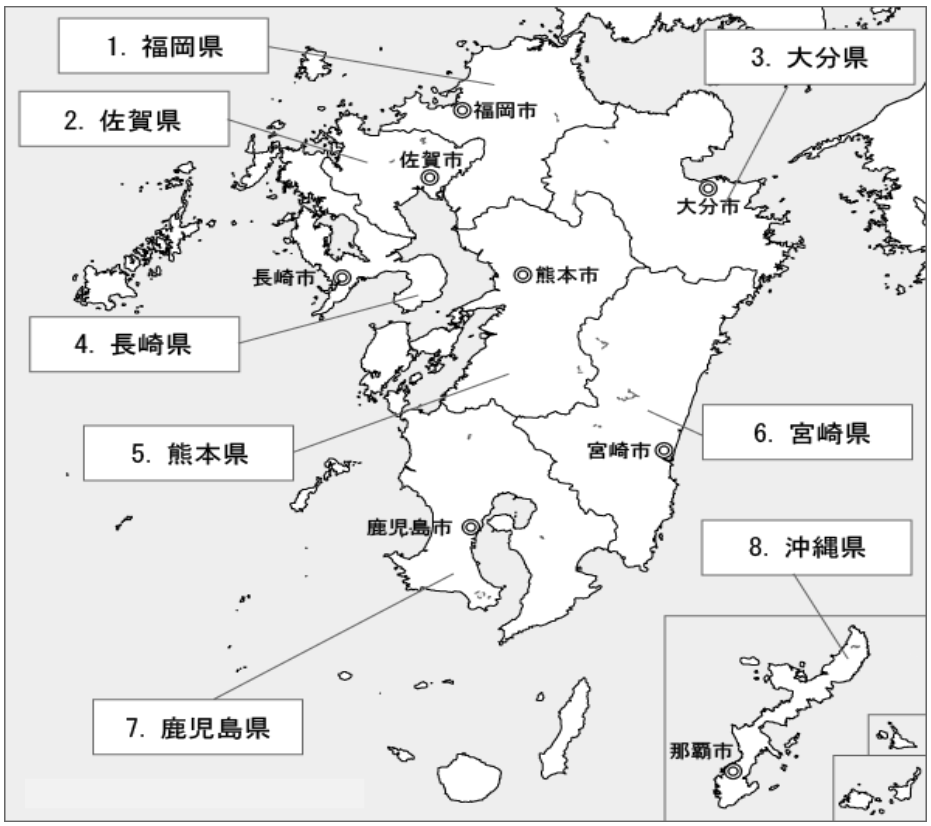
火山・・・阿蘇山、雲仙岳、桜島
→巨大なカルデラ

カルデラができるまでを
示した簡単な絵

自然環境・・きれいな海、温暖な気候
自然災害・・梅雨、台風→土砂崩れ、洪水、
集中豪雨

資料①

資料②


1. 福岡県
2. 佐賀県
3. 大分県
4. 長崎県
5. 熊本県
6. 宮崎県
7. 鹿児島県
8. 沖縄県
福岡市
佐賀市
大分市
長崎市
熊本市
宮崎市
鹿児島市
那覇市